

議員 口ノ津港と天草市の鬼池港を結ぶ島鉄フェリー航路が、今回のコロナ禍の影響で大変厳しい経営状況であるということから、秋野参議院議員が国会で「離島航路に位置づけるべきではないか」と質疑し「船舶以外の交通手段が著しく不便であることから、離島航路に該当する」という国土交通省の答弁があったと思うが、そこで本市や天草市、また島鉄、関係自治体など当事者ではどう取り組んでいこうとさ

離島航路について



中村久幸 議員

新給食センター前のスクールバス停の屋根は何メートルほど必要か

教育次長

4メートルは必要と考えている。

市長 本年3月に、島鉄から同社が運航するフェリー2隻のうち、1隻が数年後には耐用年数を迎え更新の必要がある。そのため、将来的に航路維持の困難が予想されるので、国から支援を受けるため要請するとの話を聞いていた。

これから具体的に、離島航路に認定されるための手続等の情報収集に努め、認定後の具体策について天草市、島鉄と協議を開始するところである。今後、県、運輸局などに指導を受けながら、口ノ津・鬼池航路の維持に取り組んでいきたい。



島鉄フェリーあまくさ

自転車歩行者専用道路について

議員 現在の進捗状況を伺いたい。

市長 令和2年度から着手した、旧加津佐駅から原城跡付近までの11kmの測量設計を完了した。

本年度は、国の補正予算で事業費の交付決定も受けたので、第1期地区のうち、7kmの整備工事を発注し、第2期地区の約11kmの測量設計業務も発注し、委託契約まで終了した。さらに第3期地区の水無川まで約10kmの測量設計業務についても発注・入札を近く行う予定である。

新給食センター前スクールバス停について

議員 ここで乗降する児童は何人を想定し、そのバス停の屋根は何メートルほど必要で、いつ頃完成する予定か。

教育次長 児童数は10名で、利用するのに必要な幅は、4メートルが必要と考えている。

2学期から利用するのでその前に完成させる。



質問の様子を動画で見よう

木彫マリア像の早期受け入れに協力を

市長

できる範囲で協力する。



隈部和久 議員

新給食センター関連

議員 9月から供用開始となるが、不測の事態への対応は。

教育長 深江給食センターを9月末まで残し、臨時に使用する際のマニュアルを、8月上旬までに作成する。

木彫マリア像設置関連

議員 民間での設置活動が再開されたとの報道があったが、市としての関与は。

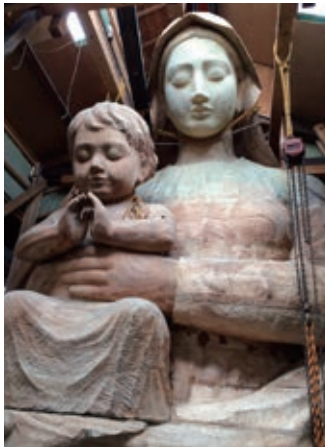
市長 民間の法人設立（南島原世界遺産市民の

会）による像の受け入れ活動については把握している。私としても本市の振興に大きく貢献するものと考えており、市としてできる範囲で協力したい。

議員 記事によると、今回の計画では、南有馬町白木野地区に、鉄骨一部2階建ての建物を建設し移設するというもので、総経費を1億1千万円と見込まれ、それを寄附によって賄うと報じている。私もこの像の誘致は、本市の観光やPRに大きく寄与するものと確信しており、ぜひとも早期に実現してほしいと願っている。しかし、現計画の通り全て民間任せでは、総事業費の調達、その後の建築、移設に係る期間

があまりにも長びくおそれがある。さらに作者（寄贈者）の年齢（87歳）を考慮しても、できるだけ早く設置まで完了すべきである。そこで、6年前本市で計画した当時の移設費用分（約2,800万円）を市民の会で募っていただき、その設置場所として、当初計画していた有馬キリシタン遺産記念館の一面を、市が提供するという形をとったら、大幅に期間短縮できるのではないかと考えている。どこまでできるか検討したい。

議員 世界遺産と合わせ、この木彫マリア像は、祈りのシンボルとして、また本市の振興への多大な効果が期待できる。ぜひとも「市民の会」との前向きな交渉を要望する。



木彫マリア像



質問の様子を動画で見よう